

製品名: PLC γ 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16248**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | 人間、マウス、ラット、サル |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 150kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | PLCG1 PLCG1; PLC1; 1-phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate phosphodiesterase gamma-1; PLC-148; Phosphoinositide phospholipase C-gamma-1; Phospholipase C-II; PLC-II; Phospholipase C-gamma-1; PLC-gamma-1 |
| 別名 | |
| 遺伝子 ID | 5335.0 |
| SwissProt ID | P19174 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト PLCG1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 736-785 |

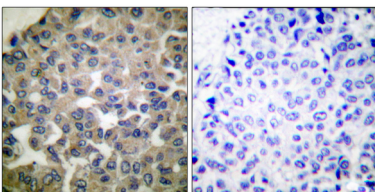
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸からイノシトール 1,4,5-トリスリン酸とジアシルグリセロールの生成を触媒します。この反応はカルシウムを補因子として利用し、受容体型チロシンキナーゼ活性化因子の細胞内伝達において重要な役割を果たします。例えば、SRC によって活性化されると、このタンパク質は Ras グアニンヌクレオチド交換因子 RasGRP1 をゴルジ体へ移行させ、そこで Ras を活性化します。また、このタンパク質はヘパリン結合成長因子 1 (酸性線維芽細胞増殖因子) 活性化チロシンキナーゼの主要基質であることも示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見出されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + ジアシルグリセロール、補因子: カルシウム、ドメイン: SH3 ドメインは CLNK との相互作用を媒介します (類似性による)。 SH3 ドメインは RALGPS1 との相互作用も媒介します。機能: PLC- γ は、ヘパリン結合成長因子 1 (酸性線維芽細胞成長因子) 活性化チロシンキナーゼの主な基質です。 PTM: PLC- γ -1 および PLC- γ -2 の受容体媒介活性化には、さまざまな成長因子受容体および免疫系受容体のライゲーションに応答したチロシンキナーゼによるリン酸化が関与しています。 PTM: 活性化 T 細胞で CBLB によってユビキチン化されます。 類似性: 1 つの C2 ドメインを含みます。 類似性: 1 つの EF ハンドドメインを含みます。 類似性: 1 つの PH ドメインを含みます。 類似性: 1 つの PI-PLC X ボックスドメインを含みます。 類似性: 1 つの PI-PLC Y ボックスドメインを含みます。 類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。 類似性: 2 つの PH ドメイン。 類似性: 2 つの SH2 ドメインを含みます。 類似性: 3 つの PH ドメインを含みます。 サブユニット: SH3 ドメインを介して AGAP2 と相互作用します (類似性による)。 TCR が活性化されるとリン酸化 LAT と相互作用します。 SH3 ドメインを介して TNK1 の Pro リッチ ドメインと相互作用します。 B 細胞抗原受容体依存的に BLNK、VAV1、GRB2、および NCK1 と会合します。 活性化 T 細胞の CBLB と相互作用し、リン酸化を阻害します。 SHB と相互作用します。 SH3 ドメインを介して KHDRBS1/SAM68 の Arg/Gly に富んだ隣接する Pro リッチ ドメインと相互作用します。 この相互作用は、KHDRBS1/SAM68 のアルギニンメチル化によって選択的に制御されます。 INPP5D/SHIP1 および CLNK と相互作用します (類似性による)。 RALGPS1 と相互作用します。 HEV ORF3 タンパク質と (SH3 ドメインを介して) 相互作用します。

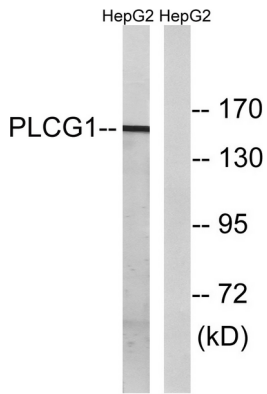
研究分野

イノシトールリン酸代謝、ErbB₂/HER、カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達システム、VEGF、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性、T 細胞受容体、Fc イプシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食作用、白血球経内皮遊走、神経栄養因子、コレラ菌感染症、ヘリコバクターピロリ感染症における上皮細胞シグナル伝達、癌の経路、神経膠腫、非小細胞肺癌。

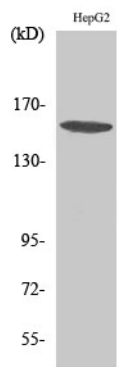
画像データ



PLCG1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



PLCG1 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した PLC γ 1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析